

経営の健全化

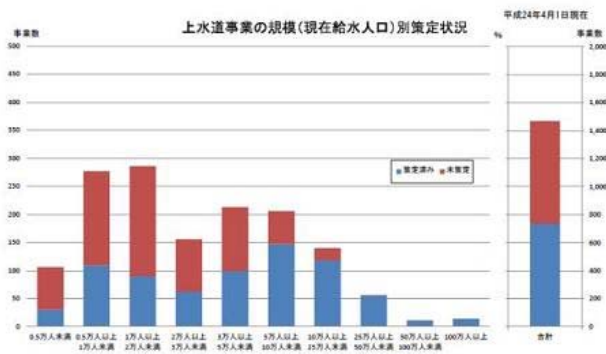
1. 地域水道ビジョンの策定業務(水道PI含む)

概要

地域水道ビジョンは、地域の水道事業の現状と将来見通しを定量的に分析・評価した上で、「水道ビジョン」の方針を踏まえて目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を含めて水道事業者が作成するものです。地域水道ビジョンは今後10年程度を目標期間とし、「事業の現状分析・評価」、「将来像の設定」、「目標の設定」、「実現方策の検討」について記載することとなっています。

平成24年4月1日現在、「地域水道ビジョン作成の手引き」に示した要件に該当する地域水道ビジョンは、上水道事業735事業、用水供給事業68事業策定されています。

現在、地域水道ビジョンが策定されている上水道事業数の割合は50%、用水供給事業数割合は67%となっています。また、地域水道ビジョンが策定されている上水道事業の現在の給水人口の合計は、全国の上水道事業の合計の85%となっています。



(注) 現在給水人口は、平成21年度水道統計による。

(出典: 厚生労働省健康局水道課ホームページ)

業務実施のメリットや効果

- ① 更新期を迎えた水道事業の課題の整理が可能となります。
- ② 市内水道事業の将来のあるべき姿を描くことにより、事業の方向性を示すことができます。
- ③ 水道事業の現状と今後の事業について、水道利用者の理解を求める良い機会です。

- ◆ 水道利用者に関われた水道事業を目指すために、アンケートの実施を推奨します。
- ◆ 業務指標(PI)の作成により、他の水道事業者と相対的な比較を行います。
- ◆ 水道年表により、創設期から現在に至るまでの水道の歴史をまとめます。
- ◆ 事業計画と財政シミュレーションにより、将来の料金体系に関する検討もできます。

地域水道ビジョンを効果的に活用するための提案

地域水道ビジョンを効果的なものとするために、5つのメニューを提案いたします。

<p>①アンケートの実施</p> <p>水道の現状と将来に対する住民の意見を今後の水道事業運営に反映させるために、アンケートの実施を推奨します。</p> <p>アンケートの内容は、水道の質、料金、事業運営などについて幅広く質問を設けますが、住民が「水道施設の更新を将来に先送りするべきか」を考える機会にもなります。</p>	
<p>②簡易水道固定資産台帳との整合と財政シミュレーション</p> <p>簡易水道事業の固定資産の整理作業と同時に行うことにより、施設の経過年数、状況、能力、投資額等が整理が円滑に整理され、企業会計化した場合の財政シミュレーションと給水原価の把握を可能にします。</p> <p>地域水道ビジョンにおいては、給水原価の内訳や水道事業者の努力による費用削減項目などの情報公開を行い、料金体系に対する住民理解を深めていくことを提案します。</p>	<p>◆給水原価（製造原価）</p> <p>経路別原価（経路工事費・材料費と不燃管先期償還土留付留費）</p> <p>原価単価</p>
<p>③アセットマネジメントへの展開</p> <p>固定資産台帳を利用して、施設の更新需要と更新時期を算出し、地域水道ビジョンにおける事業計画をより現実的なものにします。また、同様の考え方によりアセットマネジメントの導入が可能となります。</p> <p>独立採算を原則とする水道事業の経営健全化のための説明資料として効果的です。</p>	
<p>④管路台帳システム（マッピングシステム）の活用</p> <p>管路台帳システムを活用することにより、老朽管延長、耐震管路延長等を把握し、更新・耐震化に対する整理を容易にします。</p> <p>K形継手の地盤適合性判定、地震時被害率算定、耐震化率の算定も可能となり、水道施設の課題の数値化、マッピング色分け表示による見える化を可能とし、地域水道ビジョンの説得力を高めます。</p>	
<p>⑤耐震化計画・災害対策</p> <p>地域水道ビジョンの中では、災害対策について整理しますが、マッピングシステムに市町村の重要施設である避難所、病院、公共施設と共に、これらに直結する水道の重要路線や応急給水施設を示すことにより、災害時の復旧体制をより円滑にすることができます。</p> <p>地域水道ビジョンにおいては、これらの重要な施設や災害対策についてとりまとめ、予防保全・事後保全の両面から維持管理性の向上を支援いたします。</p>	